

テーマ：病院との連携～看護学生の持てる力～



カテゴリー：④連携

学校概要：（学校名）パナソニック健康保険組合立松下看護専門学校

（所在地）大阪府守口市早苗町 7-10

（課程）３年課程　１学年定員：４０名　修業年限３年

【はじめに】当校はパナソニック健康保険組合を設置母体とする大阪府守口市にある唯一の看護学校です。第 5 次改正前より地域との関わりを大事にしたカリキュラムを編成し、入学後すぐから地域の中に入り人と暮らしに触れながら出会った方々の健康をどう整えるのか、地域の中での看護の力について考えられるような科目を全領域で組み立てています。２０２４年１１月に地域医療を担っている母体病院である松下記念病院で大規模な BCP 訓練が開催され、その傷病者役として約５０名の学生が参加しました。この参加から学生が「傷病者」と「看護者」の両側面からさまざまな事象をとらえることができており、学生たちの持てる力を実感することになったので、学校自慢として紹介させていただきます。

【内容】訓練当日、学生一人ひとりにその場で年齢、被災状況、受傷の程度、トリアージタッグの色など事細かに設定された役割が任されました。搬送までの待ち時間には自分の与えられた役割の傷病名やトリアージタッグなど、わからないことを調べ始め、教員に質問にくる学生の姿がありました。また写真にあるように創部の作り方のレクチャーを受け、わいわい楽しそうに創を作成していました。引率の教員は、本番に傷病者役になり切れるのか心配をしていました。しかし、実際の現場では、あまりにも待ち時間が長く感じた傷病者役の学生が「いつまで待たすの？」と大きな声で叫ぶ姿があり、学生は教員の心配をよそに役割に合わせた演技、病態を理解し参加できていました。病院スタッフ側も真剣な表情で傷病者役の学生へ丁寧に説明を行い、開始時は訓練という空気がただよっていましたが、傷病者役になり切り、真剣に取り組んでいる学生が次々に搬送されてくると、病院側の参加者にも真剣みが帯びていったように感じました。出番を終えた学生たちは、「連携って大変やな」「ヘルメットかぶっていないのはあかんな」「一人にされたら不安」と言いながら邪魔にならないように見学をしていました。学生アンケートの結果をうけ、病院側から「傷病者目線と将来医療者となる看護師目線で、回答してくれておりとても良い評価に繋がった感謝」「**こんな思考を持っているという成長と将来性への期待を読み取ることができました**」「**学生さんの力**がこんなにすごいと思わなかった」との声をいただきました。





【終了後の学生アンケート結果　自身の学びの自由記載】一部抜粋

・訓練は貴重な学びの機会であり、、実際の災害時の状況を体験することができた

・災害時の緊張感や混乱の大きさを実感し、日々のシミュレーションや準備がいかに重要なのかを再認識できた

➢　患者としての視点の重要性

・患者役として参加したことで、患者としての立場を理解できた

・被災した患者としてどう答えるべきか迷う場面があり、患者の立場を考えた対応が大切だと感じた

➢　チーム医療の重要性

・訓練中にチーム医療の重要性を実感した

・搬送時に医療スタッフ同士が協力する場面を目の当たりにし、連携が災害時にいかに重要なのかを学べた

【さいごに】学生と日々関わっていると教員の心をゆさぶるような学生の姿に出会い、学ばせてもらうことがあるのではないでしょうか。今回訓練に参加し、改めて学生の持てる力の大きさを実感しました。しかし病院スタッフが、訓練での学生の力に驚いており、学生と関わる機会のない方々にはこの学生の力は伝わりにくいということもわかりました。そして学生の力をもっと多くの方々に知ってほしいという願いも芽生えました。私たち教員は、学生が力を発揮できるような環境を作り、この力を発揮できるような土台作りをしていかなければならないと思います。また学校を飛び出して、多くの方々と関わり、協働する機会を持つことでさらなる学生の成長につながり、また協働した方々にとっても有意義な時間となるのではないかと考えています。学生の経験が看護師を目指す人としての力となるように、地域で活躍できるようなしかけ作りの大切さを実感しましたので、報告させていただきました。